

令和6年度 事業報告

当事業団は、香川県の指定管理者として、障害者支援施設「香川県ふじみ園おおぞら」と「香川県ふじみ園だいち」において、生活介護、生活訓練、就労移行支援、就労継続支援B型、施設入所支援、短期入所及び日中一時支援のサービスを提供し、併せて「香川県ふじみ園福祉ホーム」の運営を行うとともに、共同生活援助事業（グループホーム）、相談支援事業、障害児等療育支援事業等を実施した。

サービスの提供に当たっては、利用者の意思及び人権を尊重・擁護し、個々のニーズに沿った個別支援計画に基づき、質の高いサービスの提供に努めた。

また、地域に根ざした施設運営を行うため、地域交流及び地域貢献活動にも取り組んだ。

さらに、令和6年度は、法人経営の指針となる新たな中期経営計画（令和4年度～令和8年度）の3年目であり、計画に基づき法人経営の安定的な運営と福祉サービスの向上に取り組んだ。

I 施設支援事業

1 施設

(1) 指定管理施設

敷地面積 65,011 m² 建物面積 8,160.59 m²

① 障害者支援施設

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定において基本報酬の利用定員ごとの報酬設定が見直されたことに伴い、利用状況等を踏まえ、令和6年10月1日から生活介護に係る定員を見直した。

「香川県ふじみ園おおぞら」生活介護 74人→70人 (-4人)

施設入所支援 60人

「香川県ふじみ園だいち」生活介護 36人→30人 (-6人)

施設入所支援 30人

生活訓練 6人

就労移行支援 6人

就労継続支援B型 32人→28人 (-4人)

② 障害者福祉ホーム 定員 20人

「香川県ふじみ園福祉ホーム」

(2) グループホーム（共同生活援助）

「ふじみファーストホーム」定員 6人

賃貸アパート建替えに伴い、令和6年12月1日に丸亀市飯山町真時から下法軍寺の賃貸アパートへ移転した。

(参考)

「香川県ふじみ園おおぞら」定員

(単位：人)

年 度	30	1	2	3	4	5	6
生活介護	74	74	74	74	74	74	70
施設入所支援	60	60	60	60	60	60	60

「香川県ふじみ園だいち」定員

(単位：人)

年 度	30	1	2	3	4	5	6
生活介護	36	36	36	36	36	36	30
生活訓練	12	6	6	6	6	6	6
就労移行支援	12	12	6	6	6	6	6
就労継続B型	30	32	32	32	32	32	28
施設入所支援	50	30	30	30	30	30	30

2 サービスの概要

個々のニーズに沿った個別支援計画をもとにサービスを提供した。個別支援計画は、アセスメント、モニタリング個別支援会議を経て、作成している。

また、計画相談を担当する相談支援専門員と連携してサービス等担当者会議を開催し、作成されたサービス等利用計画は、個別支援計画に反映している。

なお、本年度の具体的な支援内容は、次のとおりである。

(1) おおぞら

① 生活介護

ア 生活支援

個別支援計画に基づき、食事、入浴、清掃、洗濯、保健衛生、健康管理など、基本となる日常生活支援の充実に努めた。また、身体状況に応じて、体操、ウォーキングのほか、日課に運動班や、室内でできる運動を取り入れたり、健康維持と運動機能の低下防止に努めた。特に、重度化・高齢化している利用者には、臨床心理士、作業療法士の支援のもと、機能訓練、認知機能・身体機能の低下防止に努めた。さらに、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染防止対策の一環として、男女の食事場所や活動の場所を分けるなど工夫し感染を最小限にするように工夫した。

イ 日中活動支援

屋外活動及び療育活動の2班編成で、利用者の特性や希望に合わせて日中活動支援を実施した。屋外活動は、主に野菜づくりのほか、花の植付けや除草などの園内環境整備に取り組んだ。療育活動は、個々に応じて、刺し子や手先を使った訓練やリハビリ体操や歩行訓練、作業療法士による機能訓練などを取り入れ、身体機能の低下防止に取り組むとともに、余暇支援に繋がるものとして、ビーズ、ぬり絵、パズルなどを利用し、楽しみながら取り組めるよう工夫した。

このほか、音楽、絵本などの読み聞かせなど、利用者の希望に応じて、個々に余暇時間を午後の日課の中に取り入れ実施した。

ウ 社会活動支援

社会性を養い、リフレッシュを図る目的で、花見外出や公園散策やドライブなどの外出や、日帰り旅行（中津万象園・四国水族館、ウミカ、香川用水記念公園）を1回実施した。地域貢献活動では、楠見池親水公園の清掃奉仕活動を2回実施した。また、香川さわやかロード事業に利用者の一部が参加し、県道（善通寺府中線）のゴミ拾い、除草作業に取り組んだ。

エ 生活うるおい活動

「うるおいのある豊かな生活」を実現するため、週1回のうるおい活動の時間で、支援員の特技や知識を生かした楽器演奏、レクリエーションゲーム、ストレッチ体操、読み聞かせなどを利用者に提供した。また、学習活動として、音楽、美術の各グループで月2回ずつ実施した。音楽は、季節に合わせた歌や手あそび、楽器演奏などで楽しんだ。美術は、共同作品を地域の展覧会に出展したほか、季節に沿った作品づくりを行い、寮内の飾りなどに活用した。

オ 開所日の設定

祝日における開所日を月1回程度設けた。開所日には外部講師によるレクリエーションを取り入れ、利用者の余暇の充実を図った。

② 施設入所支援

夜勤体制で、食事、洗面、排泄、着脱衣などの支援や介助を行った。また、生活等に関する相談や助言、その他日常生活上における細かな支援を行ったほか、DVD鑑賞を行い、余暇活動を支援した。家庭との連絡調整も行った。

(2) だいち

① 生活介護

ア 生活支援

個々のニーズや障害支援区分に沿った個別支援計画の下、支援を行った。

併せて、健康増進と体力維持のために、ウォーキングや軽スポーツ、卓球などに取り組んだ。また、障害特性に対応した創作、学習、音楽活動なども行った。創作活動で制作した個人作品や共同作品を地域の展覧会等に出展した。引き続き新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、通所利用者と入所利用者の給食の時間が重ならないように実施したり、通所利用者と入所利用者活動場所を分けて支援を行っている。ウォーキング以外の活動を別々にすることで、個々の特性や能力に応じてより充実した活動を行っている。また、作業療法士によるOT体操を取り入れ、集団で楽しみながら身体機能の低下防止に努めた。

イ 社会活動支援

継続的に生産活動や環境整備などに取り組んだ。また、新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら、社会性の向上と気分転換のため、ドライブ外出、花見外出、日帰り県内旅行（春日鮎、金毘羅散策）を実施した。また、府中壮成会によるフラダンスやハーモニカ演奏、ブルース・ヒューバナー氏の尺八演奏など外部ボランティアの受入れを実施した。

さらに、地域貢献活動である香川さわやかロード事業に利用者の一部が参加し、県道（善通寺府中線）のゴミ拾い、除草作業に取り組んだ。

このほか、利用者の声を聴き、日々の支援に反映していくために利用者自治会を月に1回開催した。

ウ 開所日の設定

祝日における開所日を月1回程度設けた。開所日にはカラオケやコンビニ利用を実施し、利用者の余暇の充実を図った。

② 就労継続支援B型

ア 生活支援

個々のニーズと作業適性に沿った個別支援計画を作成し支援を行った。また、利用者本位の運営ができるよう自治会活動も支援した。

イ 就労支援

作業スキルの向上と作業工賃の増額を目標に、個々に適した就労の場を提供した。作業は、クリーニング・園芸・軽作業とし、平日の9時から16時30分までの時間で実施している。なお、新型コロナウイルス感染状況に配慮しながら、医療センターでの施設外就労への取り組みを実施した。

ウ 社会活動支援

社会性の向上と気分転換目的に、日帰り旅行（遊食房屋、四国水族館）を実施した。また、地域貢献活動である香川さわやかロード事業に利用者の一部が参加し、県道（善通寺府中線）のゴミ拾い、除草作業に取り組んだ。新型コロナウイルス感染状況に配慮しながら、各種スポーツ大会や地域イベントへの参加を実施した。

③ 就労移行支援

個々のニーズに沿った個別支援計画を3か月ごとに作成し、事業所での職場体験や実習を通して、一般就労へ移行できるようにする就労支援や、ハローワークなどの公共機関が適切に利用できるようにする社会活動支援を行うが、利用者がいないため、令和6年度は休止となった。

④ 生活訓練

ア 生活支援

自立した生活習慣の確立を目標に、3か月ごとに個別支援計画を作成し支援を行った。

イ 社会活動支援

社会性の向上を目指し、金銭管理、公共交通機関の利用、買物などの訓練を実施した。

⑤ 施設入所支援

宿直・夜勤体制（男性常直支援員は隔日勤務）で、夜間・休日にサービスを提供した。食事、排泄、入浴、身だしなみ等の支援に加え、購買利用など、余暇支援、家庭との連絡調整なども行った。

3 利用状況の推移（月平均利用者数）

(1) おおぞら

(単位：人)

年 度	30	1	2	3	4	5	6
生活介護	63.9	60.2	58.0	58.0	58.1	56.7	55.3
施設入所支援	51.3	49.4	49.2	49.3	48.1	48.0	48.2
短期入所支援	0.6	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.7
日中一時支援	0.8	0.9	0.3	0.2	0.2	0.4	0.4

(2) だいち

(単位：人)

年 度	30	1	2	3	4	5	6
生活介護	32.9	30.3	26.8	25.6	25.6	25.6	23.0
生活訓練	1.0	1.2	0.5	0.0	0.0	1.0	1.5
就労移行支援	1.5	1.0	0.9	1.3	1.0	1.8	0.0
就労継続B型	30.6	29.6	25.4	24.3	24.0	22.5	25.1
施設入所支援	23.0	19.1	17.4	16.2	17.3	19.1	17.9
短期入所支援	0.6	1.3	1.0	0.4	0.4	0.4	0.6
日中一時支援	1.8	1.9	1.5	1.0	0.4	0.8	0.6

II 地域支援事業

相談支援については、「ふじみ園相談支援センター」が、香川県及び丸亀市からそれぞれの事業指定を受けて、指定一般相談支援事業、指定特定相談支援事業及び指定障害児相談支援事業を実施し、障害を持つ方々の多様化するニーズに対応できるようサービス等利用計画の作成などの支援を行った。また、当園を含む「短期入所」や「日中一時支援」の利用調整にも努めた。

丸亀市・坂出市・宇多津町・綾川町の2市2町から障害者相談支援事業及び障害支援区分認定調査事業を、香川県から障害児等療育支援事業を、かがわ総合リハビリテーション事業団から発達障害者地域支援体制整備事業を受託するなど、幅広く障害者の地域支援事業を展開した。

また、福祉ホーム（地域生活支援事業）やグループホーム（共同生活援助事業）では、個々の利用者が安全で充実した地域生活を過ごせるよう支援に努めた。

1 相談支援事業

指定特定相談支援事業等の利用者数は別掲のとおりである。アセスメントからサービス等利用計画作成、継続したモニタリングなどを通して、障害者のケアマネジメント、相談支援体制の充実に取り組んだ。

委託相談支援事業において、相談援助や助言、福祉サービスの利用支援、情報提供・権利擁護等に必要な支援などを行うことにより、地域で生活する障害児・者の暮らしや生活を支援した。

また、中讃東圏域自立支援協議会や中讃西部地域自立支援協議会の構成メンバーとして、自立支援協議会の運営やネットワーク強化に取り組み、東西両圏域で実施している地域生活支援拠点事業に参画したほか、障害者虐待防止に向けて各市町とも連携を深め積極的に取り組んだ。

2 障害支援区分認定調査事業

圏域2市2町からの委託事業として、支援区分の認定調査を実施しており、支援を必要とする障害者の実情に見合った的確な認定が行われるよう、市町と連携して円滑な調査を実施した。

3 障害児等療育支援事業

香川県からの委託事業として、今年度も引き続き県内全域の在宅障害児を対象に実施した。

(1) 訪問療育等指導事業

臨床心理士が障害児宅を訪問し、療育やカウンセリング、保護者には情報の提供や相談等の支援を行った。

(2) 外来療育等指導事業

外来療育相談として、子供の行動や障害特性の理解に関する相談を受けて、行動療法を用いた子どもとのかかわり方を身につけるペアレントトレーニングを実施するとともに、関係機関などの情報提供を行った。

また、読み書きに困難さのある児を持つ保護者の会を3回実施し、保護者の相談に応じるとともに、保護者同士で悩みや困り感を話し合うなど、情報交換と交流の場を提供した。

このほか、外来療育として、在宅障害児の療育活動支援を行う次の事業を実施した。

① ソーシャルスキルトレーニング（カラフル）

臨床心理士を中心に、作業療法士や外部講師と、月1回、社会適応能力が身につけにくい発達障害児（小3～6年）を対象に、遊びを通じた訓練を行ったほか、中学生以上を対象にしたSSTを3回行った。

② 親子運動教室（きららキッズ）

毎月2回程度、発達の気になる小学生の親子（10組程度）を対象に実施した。発達の気になる親子がふれあいながら、運動感覚機能や社会性の発達を促した。

③ 心理療法

心の問題を抱えた児童や保護者に対し、遊びを通じたセラピー（児童）や言語でのカウンセリングを行った。

④ 作業療法

日常生活動作や運動の苦手な児童に対して遊びや道具を使ったプログラムを実施した。

⑤ ジョリー・フォニックス、MIM

読み書きに困難さのある児童に対して、多感覚を用いた英語の音と綴りの関係を学ぶ「ジョリー・フォニックス」と促音、長音、拗音、拗長音などを学ぶ「MIM」を実施した。

なお、親子料理教室、支援学校等の夏冬の長期休みに実施している余暇教室は、新型コロナウイルス感染防止のため、昨年度に続き中止した。

(3) 施設支援指導事業

①綾川町が定期的実施している親子教室「ここから教室」の運営を支援した。障害児に関わっている保健師や保育士等スタッフに対し、遊びの内容や療育的活動についての助言、指導を行うとともに、親子でコミュニケーションが図れるよう内容を充実し、運動遊びを取り入れた集団活動を行った。

②坂出市の子育て支援センター「まろっこひろば」の運営を支援した。子育て広場に来ているお子さんの中で、発達上に問題があると思われるお子さんに対するアプローチ方法についての指導・助言を行った。また、発達障害についての知識を身につけてもらうよう、講義も行った。新たに、親子対象に運動遊びを取り入れた活動を実施した。

③観音寺市の「ふたば保育園」では園の行事に参加、「親子 de ここすまいる」では運営を支援した。発達の気になるお子さんの早期発見や早期療育につなぐこと、親子の関わり方の助言、保護者の子育て支援を行った。

④多度津町の「白方保育所」の発達の気になるお子さんへのアセスメントと指導、助言を行った。また、職員対象に講義を行った。

⑤その他、依頼のあった関係機関（NPO法人や支援学校等）に都度訪問した。

4 発達障害者地域支援体制整備事業

かがわ総合リハビリテーション事業団から再委託を受けて、発達障害者のための支援体制整備に取り組んだ。

発達障害者支援センター「アルプスかがわ」と連携し、地域支援マネージャーとして、香川県の中・西讃を担当し、巡回等による相談・助言や、関係機関等の研修支援を行うとともに、図書館啓発などの一般啓発事業を行った。また、連絡会や事例検討会、保護者会に参加するとともに、臨床心理士、作業療法士の専門性を高めつつ、圏域の拠点となる体制の充実を図った。

5 ひきこもり当事者、家族向けの交流・社会参加、体験できる居場所づくり事業

県の委託を受け、ひきこもりや生き辛さを抱えている方の居場所事業を実施した。

6 園内利用者に対する療育

おおぞら、だいちの支援員と連携し、今後の方向性などを情報共有しながら、臨床心理士によるスヌーズレンや心理的アプローチ、作業療法士による個々の利用者に応じた療育を行った。

7 福祉ホーム（地域生活支援事業）

利用者に安価な利用料で住居等を提供し、日中活動の支援や金銭・健康管理など日常生活での支援を行った。

14人の利用者が就労又は福祉的就労に従事しながら、より質の高い地域生活を目指している。事業所と当園が連携をとりつつ、個々のニーズに応じた就労支援や生活支援などを行っている。令和5年度より、就労継続支援B型を利用している福祉ホームの利用者は、だいちが中心となって支援した。

8 グループホーム（共同生活援助）

定員を充足し、利用者が安全かつ楽しい地域生活を送ることができるように、アセスメント、モニタリング、個別支援計画の作成等を通して、サービス管理責任者・世

話人が生活全般の支援を行った。

ホームセキュリティ管理による日常の防犯対策に加え、避難訓練の実施、防災グッズの設置、丸亀市の要援護者登録により非常時における防災対策に努めた。

9 地域支援事業利用実績

年 度	30	1	2	3	4	5	6
基本相談支援事業 (利用者数)	682	726	702	668	631	612	582
指定特定相談支援 事業 (件数)	427	534	430	504	529	440	511
指定一般相談支援 事業 (件数)	0	0	0	0	0	0	0
指定障害児相談支 援事業 (件数)	286	321	215	231	204	167	151
障害支援区分認定 調査 (件数)	124	123	121	109	95	104	108
訪問療育等指導事 業 (延べ件数)	1	2	0	16	27	27	19
外来療育等指導事 業 (延べ人数)	895	1,057	485	314	458	685	733
施設支援指導事業 (延べ回数)	23	19	13	22	50	58	75
短期入所事業 (延べ日数)	416	725	397	149	151	165	509
日中一時支援事業 (延べ回数)	931	1,038	649	407	204	459	402
福祉ホーム (利用者数)	20.0	20.0	19.3	17.5	16.6	16.4	15.6
グループホーム (利用者数)	6.0	6.0	6.0	5.9	6.0	6.0	6.0

Ⅲ 地域社会との連携

地域に根ざした施設を目指し、継続的に地域交流・地域貢献事業に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染状況に配慮して中止していた「スプリングフェスタ」を5年ぶりにボランティア等の協力を得て、再開した。

9月の敬老月間に、地域の独居老人宅を民生委員と一緒に利用者が訪問し、ふじみ園のお花のプレゼントを配り、交流を図る「ふれあい訪問」を実施した。

このほか、特別支援学校生徒の現場実習や体験学習の受入れ、学生の資格取得のための実習、ボランティアの受入れについて、新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら、可能な範囲で対応した。

地域貢献活動としては、「香川さわやかロード事業」による県道の清掃活動を3回、当園に隣接する楠見池親水公園の清掃活動を2回実施した。

IV 管理運営

1 収支状況

(単位：100万円)

年 度	30	1	2	3	4	5	6
サービス活動収益	577	585	579	569	584	589	622
〃 費用	578	580	617	621	633	638	642
増減差額	△1	5	△38	△52	△49	△49	△20

2 職員の配置状況

(単位：人)

年 度	30	1	2	3	4	5	6
職 員 数	89	90	92	94	94	94	93

3 職員の資格等の取得（保有）状況

(単位：人)

年 度	30	1	2	3	4	5	6
社会福祉士	22	20	21	23	23	22	24
介護福祉士	29	26	32	36	36	40	40
精神保健福祉士	6	6	10	10	10	9	9
臨床心理士	1	1	1	1	1	1	1
保育士	11	12	12	10	9	8	8
作業療法士	2	2	2	2	2	1	1
サービス管理責任者	20	21	17	16	16	18	8

4 連絡調整委員会の開催

経営管理委員会の下に給食、保健衛生、生活支援、職員研修、行事、広報、防災、環

境、苦情検討、虐待防止、個別情報管理、スノーズレンの各委員会を設置し、効率的な施設運営と利用者へのサービス向上を図るため、課題について検討・協議した。